「七色畑」を見て野菜作り学ぶ

夏休み子供教室の母子ら

「鎌倉でおいしい野菜が採れるの知ってる」―とんな呼びかけの、夏休み子ども教室が8月2日、鎌倉市市民活動課の主催で初めて行われ、好評だった。

市内の公私立の3年から6年の小学生と保護者ら20人が参加、市の講堂で同市関谷の農業盛田勝美さん(42)移動し、盛田さんの「七色畑」を見学したり、収穫したばかりの枝豆の枯れ葉などを取って、茎をそろえる農業体験もした。

39平方㍍の鎌倉には関谷、城廻地区の農地があり、180戸が生計をたてている。少ない畑地を区切り、多品種の野菜を生産するところから、鎌倉の農業の取り組み、七色畑と呼ばれる。

そのあとマイクロバスで2㌶の畑地を持つ盛田さんも、この方法で野菜を作り、「鎌倉ブランド」として小町の農協連即売所などに出荷している。

みなどを聞いた。

体験教室に参加の母子らは、ピーマン、にがうり、きゅうり、なす、ミニとうがらしなどの畑地で、種まきの時期や手入れの方法などをたずねた。

「農家の苦労が分かった気がする」と子どもたちも満足気。そろえた枝豆の束を土産にもらい大喜びだった。

サンバやよさこい、ハワイアンも

盛況だった35回御成ぼんぼり祭

35周年記念のぼんぼり祭が7月下旬の5日間、鎌倉駅西口の御成通りで開かれた。子どもよさこいやサンバパレードが行われた土日曜は、模擬店なども出て多くの人でにぎわった。写真は熊田登喜夫さん撮影。

ぼんぼりは、御成商店街協組(小嶋光儀会長、約120店舗)が募集した作品をぼんぼりに仕立てたもの。優秀作品には賞品もあり、毎年応募者が増え今年は4百枚以上の作品が集まった。駅前や通りに約120個のぼんぼりとなって飾られた。

子どもよさこいは御成小などの児童240人ほどがそろいのはっぴに赤鉢巻で踊った。

サンバはセミプロで一行30人ほどがあでやかな衣装でパレードした。

今年度の鎌倉市商店街元気アップ事業の認定を受けて製作した、鎌倉幕府ゆかりの武家の名前の入った「家紋旗」も商店街の320㍍の区間に36旗掲げられた。

市民や観光客に親しんでもらうため、家紋の解説書も配布している。

問い合わせ同協組☎23・1250

ひと

五行歌の歌集を出版した　前(まえ)　しおんさん

「海の鼓動が／聴こえてくる／耳に当てた／キミの鼓動との／静かなハーモニー」

こんな感じの、五行でつづられている歌集が出版された。本をめくってみると、確かに言葉が、いずれも五行で区切られている。そのほかにも題名はない。

詩のようでもあり、短歌のようでもあるが、決まりは五行でまとめること。しかもタイトルがないから、何を意味しているのかは、文脈などからくみ取るしかない。

いまどの「五行歌」のファンが多いという。前しおんはペンネームで、本名は中原かおり。しおんは漢字の詩音からつけた。

「五行歌に出会ったのは2年ほど前になる。たまたま同人誌を手にしたのがきっかけで、作ってみるとすらすらできた。それからは子どもや暮らしのことなど思いつくまま歌にした」

これまでに5百首ほど詠んでいる。主婦業に専念しながら、感性を歌作りに傾けている。同人誌や新聞の歌欄に投稿もしている。文芸賞に応募して入選しているのもあり、少しずつ実績を積み重ねている。

B6判、64㌻の歌集には72編を掲載している。カラーの表紙とモノクロの挿絵4点は絵本作家で画家の葉祥明さんが描いた。

青い海と空、遠方の砂浜にぽつんと小さく自転車が一台、広くて乾いた感じの表紙に「私の、甘く悲しい一日」。これが本の題名だという。

「せみの抜け殻のように／脱ぎ捨てられた／コーヒー色のTシャツ／その形のまま／夏が過ぎる」

洗濯してよいのか、ダメなのか、心の迷いを詠んだ夏の思い出の彼のTシャツ。「あなたの胸で眠ると／安心する／幸せが／こぼれないよう／もっと強く耳を当てる」

「本の歌は若い人たちに読んでいただくようなものをまとめた。タイトルは女性の複雑な気持ちを表した。女って何もかも満たされていても、何か、もの足りなさを思う複雑さをもっている」

草壁焔太さん主宰の五行歌は全国的な広がりをもち、歌の会は2百カ所ほどになるという。

「鎌倉・逗子にはまだ歌の会がないので、発足できたらよいと思う。自分の中の感情やだれかに伝えたい光景などを、五行の言葉に自由に歌い込めばよいわけで、いますぐ始められるのが魅力。暮らしにロマンと深み、幅ができるような気がする」

会社員の主人と大学生の子どもさんと逗子に住む。47歳。(本は東京・新風舎発行。☎03・5775・5040、本体1200円)

夏を彩ったぼんぼり祭

闇に浮かんだ約4百個

鎌倉の夏の風物詩、ぼんぼり祭が8月7日から9日までの3日間、鶴岡八幡宮で行われ、古都の夏を彩った。写真は松原省吾さん撮影。

例年立秋の前日から9日の実朝の誕生日まで、鎌倉や近隣の著名人の書画がぼんぼりに仕立てられ、境内に掲げられる。

68回目で、集まったぼんぼりの数は大2550、小128の計3383個。画家の平山郁夫、中島千波、大津英敏、俳優の朝丘雪路、竹中直人さん、石原慎太郎都知事らの書画など。

初日は夏越祭の茅の輪くぐりもあり、一日中人出が多かった。2、3日目は雨あがりの夕方からにぎわいがあった。

鎌倉花火大会に27万の人出

昨年の1万人増、ゴミも1トン増

夏の夜空を彩った58回鎌倉花火大会が8月10日に行われ、昨年より1万人多い27万の人出があった。

前日まで雨が降ったりやんだりの天気だったが、この日は快晴で、由比ガ浜、材木座海岸周辺は人で埋まった。

約2千9百発の花火が打ち上げられ、水中花火とスターマインが海上と夜空で同時にさく裂したとなど大きな歓声が起こり、カメラのシャッターを切る人も多かった。

鎌倉市の美化衛生課と観光協会は、花火の当日、ゴミ散乱防止のため、袋を配布し、ゴミの持ち帰りを呼びかけた。それでも砂浜や周辺の道路などには、ビニールシートやビン、缶、ビニール袋などが散らばり、翌朝7時からの清掃にボランティア約240人が参加し収集にあたった。ゴミの量は昨年より1㌧強増しの約14・3㌧もあった。

親子で狂言の鑑賞

日本の伝統芸能に触れる

「手から食おうか、足から食おうか、それとも頭から食おうか」と男に襲いかかろうとする姫鬼。次の瞬間、男にはじき飛ばされ、一あいた、あいた、あいた：」と後ずさりする様子に親子で大笑い。

鎌倉芸術館で8月上旬、「親子のための狂言の会」が催され、夏休みの小中学生らが鑑賞した。

演目は「盆山」「棒縛」「首引」で、野村万作、善竹富太郎らが演じる狂言。

ホールに設置された能舞台、役者たちの装束や面なども観察した。

小学生の兄弟を連れて訪れていた鎌倉市在住の主婦は、「笑いが止まらなかった」と話していた。

狂言に使う面をつける体験もあり、国立能楽堂で研修に使われている3種類の面を顔にあてて記念撮影する親子も多かった。写真。

迅速と、サービスと
東京陸運局認定・ニッサンサービス・J・A・F指定
㈲川島自動車整備工場
大町4－1－35(名越踏切手前)　電話 0467(25)3223

CHINESE-RESTAURANT
大切にします……「心」からのおもてなし。
中国料理　華正樓(かせいろう)
●鎌倉店／鎌倉長谷大仏前 ☎0467(22)0280㈹ ●横浜中華街／本店 ☎045(681)2918㈹ 新館 ☎045(661)0661㈹

お手伝いサービス
手軽なお掃除　●女性一人で伺います　●お宅のお道具を使用させていただきます
定期料金(月2回以上)
3時間…6,900円
税込み 7,245円
TEL 鎌倉店 0467-24-4400 鎌倉市大町2-5-26
藤沢店 0120-24-0409 藤沢市鵠沼藤ヶ谷3-6-5
㈲アイ・ハウスクリーン
http://www.iclean.co.jp

本を通じ、皆様のお役に立ちたいと願っています。
雑誌・書籍・文具・事務用品・ファンシー
鎌倉駅東口前 ☎0467-22-0266
大船駅東口前 ☎0467-46-3841
東逗子マルエツ店内 ☎046-871-0590
島森書店

展示即売会場
2F貸画廊(75㎡)
3F貸教室
ギャラリー島森
●予約申込み・問合せ ☎0467(24)3160　島森商事㈱